

● 令和2年度第1回放送番組審議会

■ 開催日時

令和2年8月7日（金） 12：00～14：00

■ 開催場所

秋田ケーブルテレビ 会議室

■ 出席委員（8名）

放送番組審議会会長 景山 陽一
放送番組審議会副会長 服部 洋之
放送番組審議委員 永瀬 幸子
清水川 裕一
北澤 孝助
鈴木 修一
三浦 美和子
佐藤 太郎
(順不同・敬称略)

■ 事務局出席者

代表取締役社長 末廣 健二
取締役兼コーポレート本部本部長 飯塚 雅子
クリエイト本部長 高橋 伸明
クリエイト副本部長 田中 康司
クリエイト本部マネージャー 佐竹 久美
クリエイト本部リーダー 小林 拓也
TEAM CNA CREATION 檜垣 賢次
コーポレート本部リーダー 伊藤 慶子
コーポレート本部 石岡 美香

■ 議事

- ・事務局からの報告事項
- ・自主放送番組についてのご意見

■ 視聴課題番組

番組名
①成田洋一監督のCM制作塾 秋田・生保内を売り出せ！
②し～なスクール 課外授業 「大曲の鹿島流し」を学ぼう
③アニメ 「秋田犬たれみみだいちゃん」 第1話～4話
④「アップル」は届かず～日本最後の空襲はなぜ決行されたのか？～

■ 放送番組審議委員からのご意見

【①成田洋一監督のCM制作塾 秋田・生保内を売り出せ！】

- ・完成度は極めて高いコンテンツである。
- ・見ている側も監督の授業を受けている気分になれる。
- ・メディアリテラシーの教材になりそうな番組だった。
- ・体験した生保内中学校の生徒の成長が見て取れる。
- ・見ていて元気をもらった。自分自身とても勉強になった。
- ・もっと秋田にゆかりのある人（著名人）の授業を見てみたいと思った。
- ・映像を通して人間性や臨場感が伝わってくる。
- ・とても感動した。いいCMができたと思う。
- ・成田洋一監督が何を語っているのかのテロップが欲しかった。
- ・子供たちが何かを作り上げるという番組はもっと取り扱ってほしい。
- ・学生がCMを制作することで地域の良さの再発見や本人の自信に繋がったりなどの好循環が生まれる。
- ・授業で使っている資料を見せて（映して）欲しかった。
- ・地域を見つめ直すだけではなく、人を育てるとはどういうことか、働くとはどういうことか、といったメッセージを含んでおり、秋田に住んでいる人以外にとっても普遍的なテーマを自然に織り交ぜた作品だと感じた。

【②し～なスクール 課外授業 「大曲の鹿島流し」を学ぼう】

- ・リベラルアーツがつけられる内容の番組である。
 - ・子供のためと言いながら大人も勉強になった。
 - ・動きがなく、話も長いので淡々としての印象はある。
 - ・ふるさと検定にもない祭りをとりあげたのがよい。
 - ・子供達が疑問に思った事を問いかけ形式で出来ればよかった。
 - ・直接授業を受けている感じがした。
 - ・小学生が対象のコンテンツとしては少し難しい内容に感じる。
- しかし、あえて難しいまま伝えて子供が疑問に感じた事を親と話すことができる機会になると思う。
- ・放送時間が長く感じた。一コマをもっと短くして複数回にわけて放送する方法も良いかと思う。

【③アニメ 「秋田犬たれみみだいちゃん」 第1話～4話】

- ・短編アニメでとてもシンプルで見やすい。少し空いた時間で見る事が出来る。
- ・週1回配信しているということなので、このままのペースで配信を続けていくことが大事であると感じる。
- ・秋田犬をキャラクターにすることで、幅広い年齢や広い地域に届けられる。
- ・キャラクターは子供が広げていく事が多いので、子供から人気を広げていけばいいと思う。
- ・地域の特徴をアニメに盛り込んでいることから、今後アニメを通して地域の魅力発信が期待できる。
- ・秋田犬のコンテンツをこれからも継続してほしい。

【④「アップル」は届かず～日本最後の空襲はなぜ決行されたか？～特別編】

- ・非常に完成度の高い、まさに「映画」という作品でのめり込んで見た。
 - ・ぜひ劇場で見てほしい作品。シアターの活力になる。
 - ・これから子供たちに見てもらい後世に伝えてほしい。
 - ・多くの人に見てもらいたい。特に若い世代に見てもらいたいが、そのための工夫が必要。
- 良い番組をどう視聴してもらうのが大切である。
- ・空襲の事実など、忘れてはいけない事は繰り返し番組を作っていくことが社会的意味があると思う。